

研究名：

味覚刺激と冷刺激を用いて当院患者の唾液嚥下に与える影響

研究目的：嚥下反射遅延に対する間接嚥下訓練として冷触刺激法がある。先行研究で酸味刺激や冷刺激により嚥下促進効果が報告。本研究は酸味以外の味覚（甘味、苦味）と冷刺激の効果を組み合わせで検討した

研究方法：測定は反復唾液嚥下テスト（以下 RSST）。嚥下障害疑い：RSST 2 回未満/30 秒。刺激前後の嚥下反射の回数と秒数を測定。1 日 1 種類の刺激をランダムに実施

研究期間：2024 年 11 月 18 日～2025 年 9 月 5 月（10 か月間）

研究対象者：嚥下障害患者 14 名（男性 11 名、女性 3 名）

研究対象者について：個人情報保護されることを書面で説明し承諾を得た。

研究代表者：言語聴覚士（真栄城玄一郎、赤嶺亜純、當銘菜穂）

利益相反：なし

今後の対応：院内研究会で発表後、論文作成をする。